

誰と手を組む？ ～連携の成功要因と課題～

司会：

諏訪博彦（電気通信大学大学院情報システム学研究所）

ゲスト：

芝小路晴子氏（財団法人日本自然保護協会）

田中亜樹氏（ネットワーク型体験活動推進ぐんま委員会）

9:15 はじまり

司会者より、調査研究について・分科会の目的・分科会の流れについて説明がなされた。（図1）

<p>なぜ、連携について考えるのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 環境教育・自然教育・体験活動などに対する社会的要請の高まり <ul style="list-style-type: none"> ● 多人数に対する活動の提供が必要 ● 多様なプログラムの提供が必要 ○ 個人・少人数の指導者では、対応できない ○ 他分野との融合が必要 <ul style="list-style-type: none"> ● 学校教育、生涯学習、地域活動など ○ 連携して対応する必要がある 	<p>本分科会の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 調査結果と紹介事例を踏まえ、連携について具体的な議論を行うこと ○ 「連携とは何を指すのか」を整理する ○ より良い連携をするためのアクションプランを整理する ○ 新たな連携の創出を図る ○ 環境教育・自然教育・体験活動を促進
--	--

図1：分科会の目的

次いで、参加者全員の自己紹介が行われた。

9:40 公開インタビュー～事例報告と調査報告～

連携について議論するための共通基盤を構築するために、具体的な事例についての事例報告と、群馬県内で実施された調査結果の報告がなされた。

事例報告として、日本自然保護協会の芝小路氏から赤谷プロジェクトについて報告がなされた。特に、プロジェクト開始の経緯や連携者、具体的な成果について説明された。

また、ネットワーク型体験活動推進ぐんま委員会の田中氏より、森と水の物語川場編について報告がなされた。文科省・環境省・国土交通省・林野庁などの行政機関と、複数の民間の野外教育団体によって構成された実行委員会との連携事例について、写真等を用いて具体的な事例の報告があった。

その後、二人の事例紹介者にインタビューをしながら、群馬県内における連携体験活動事例調査の結果について、諏訪より報告がなされた。（図2）

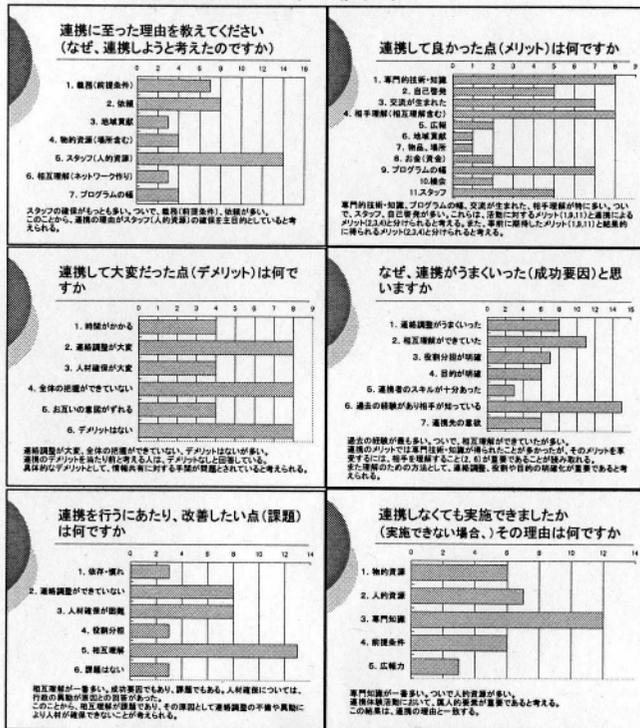


図2：群馬県内における連携体験活動事例調査の結果

10:40 ワーク① 連携のグループ化、レベル分け

どんな連携があるのかを整理するために、調査で抽出された連携例について、カードを使って、グループ分けを行った。その結果、広報、何かをもらった、企画運営などでグループ化された。（図3）

11:15 ワーク② アクションプランの作成

グループ化された連携事例や各自が持っていた課題につい

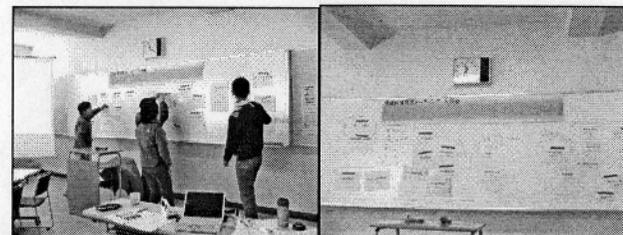


図3：連携事例のグループ化

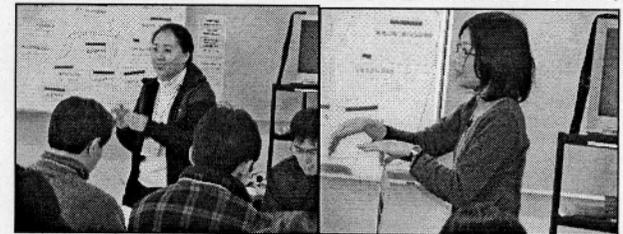


図4：グループ毎の討論

て、その解決策を考えるために、3グループに分かれて討論が行われた。（図4）

12:00 ふりかえり（まとめ）

各グループでどんな内容が話されたかを全体でシェアした後、事例発表者よりそれぞれコメントがなされた。芝小路氏からは、「参加の梯子」を用いて連携の段階を考慮することの重要性が述べられた。田中氏からは、オープニングのウサギと亀の話に基づいて、ゴール設定の重要性が述べられた。



（レポート：ぐんま環境教育ネットワーク 諏訪博彦）